

研究機関：広島大学

【ヒトゲノム・遺伝子解析研究】

研究課題名 遺伝子多型が消化器疾患術後経過および再発・予後に与える影響についての検討

研究責任者名 大学院医系科学研究科消化器移植外科学 教授 大段 秀樹

研究期間 平成 29 年 9 月（倫理委員会承認後）～ 令和 9（2027）年 3 月

対象者

平成 7 年 1 月 1 日～平成 26 年 4 月 13 日までに広島大学病院消化器移植外科で消化器疾患手術が行われた患者さんのうち、ヒトゲノム・遺伝子解析研究「内在性 unlicensed NK 細胞の肝癌再発・予後に対する影響（第ヒ-100 号）」において同意が得られ検体採取が行われた患者さんおよび、平成

26 年 4 月 14 日～承認日（平成 29 年 12 月 11 日）までに、広島大学病院消化器移植外科で消化器疾患手術が行われた患者さんのうち、疫学研究「消化器癌研究のためのデータベース登録（疫-922）」において同意が得られ検体採取が行われた患者さんおよび健常人ボランティアを対象にします。

意義・目的

[Redacted content]

侵襲度や腫瘍の悪性度と抗がん剤の効果や再発および術後合併症の発生率といった治療結果との関連